【本邦初公開】

映画上映会&トークイベント

グラニート:独裁者に爪をかけろ!

製作: Skylight Pictures 監督: パメラ・ウェイツ アメリカ・スペイン・グァテマラ合作映画

1980年代軍事独裁政権下の中米グァテマラで20万人ものマヤの人々が虐殺されたという。

過去の虐殺をどう立証するのか。

その責任を問うべく、スペイン・グァテマラ・ニューヨークを結んで、国際法廷での息が詰まるような攻防が始まる。



ソフィア・オープン・リサーチ・ウィーク 2015 SOPHIA OPEN RESEARCH WEEKS 2015

2015年11月11日(水) 17:00-19:00

上智大学四ツ谷キャンパス 2号館409教室

(最寄り駅: JR/地下鉄東京メトロ南北線・丸ノ内線四ツ谷駅)

参加費無料・事前登録不要・日本語字幕付

主催: 上智大学グローバル・コンサーン研究所 お問い合わせ: i-glocon@sophia.ac. jp / 03-3238-3023

2011年度「ヒューマン・ライツ・ウォッチ国際フェスティバル」オープニング上映作品

2011年度「パリ国際人権フィルム・フェスティバル」ベスト・クリエイティブ・ドキュメンタリー 作品賞

2011年 「Politics on Film」審査員特別賞

2011年 「サンダンス映画祭」公式招待作品

2014年 「Britdoc Impact Award」受賞(社会に対し最も偉大な影響を与えたドキュメンタリー映画に与えられる賞)







あらすじ

ある日、ニューヨークのドキュメンタリー映画作家パメラのもとに、スペインの国際弁護士アルデムナから 連絡が入る。現在、スペインで進行中の、「80年代の中米グァテマラでの先住民大量虐殺事件」について、 当時の独裁者リオス=モント将軍を国際法廷で訴追するための証拠を捜しているというのだ。

パメラは、80年代にグァテマラで、虐殺事件の取材をしたことがあった。その経験をもとにドキュメンタリー映画『山が震えるとき』を発表し、サンダンス映画祭グランプリを獲得、また、その主要出演者だったマヤ・キチェー族の女性運動家リゴベルタ・メンチュウを世界に紹介したことがある。しかしまだ、グァテマラでの膨大な 未編集のフィルムが倉庫に眠っている。

これらを証拠に、行方不明者 45000 人を含んで、20 万人にも及ぶグァテマラのジェノサイドとその責任を立証できるか。

アルデムナの依頼に応じてフィルムを捜すうち、彼女の過去の記憶が鮮烈に蘇る。

山地のゲリラ軍に極秘裏に接触した経験、その事実を隠して軍関係者と親しくなり同行取材した経験、 大統領自身とのインタビュー....。

そして、この国際法廷での証拠捜しと証言を通じて、20年の時を経て、ふたたび彼女は、当時の関係者と相まみえることになる。彼女に山で取材することを許したゲリラ司令官、彼女が乗っていた軍のヘリを撃墜した先住民ゲリラ兵士、何者かかから軍の秘密書類を託された女性ジャーナリスト。そして、軍によって村ごと虐殺され、家族も皆殺しにされた中で、奇跡的に生き残った先住民の男性...。

さらにパメラの取材は、現在のグァテマラに続く。生命の脅迫を受けながら、グァテマラ市内から次々発掘 される死体を調査する死体考古学者、父親が行方不明になったまま成長した少女。大量に発見された警察の 極秘文書。

笑って虐殺の存在そのものを否定する大統領自身に対し、彼が当時のジェノサイドの最高責任者であったことをどう立証するか。スペインの裁判所は、それに対してどう判断を下すのか。

彼らの息が詰まるような攻防が始まる。

SPECIAL TALK

「デモクラシーと市民メディアの役割」 中野真紀子 (デモクラシー・ナウ! ジャパン代表)

翻訳家。訳書にエドワード・サイードの『ペンと剣』、『遠い場所の記憶』、イスラエル・パレスチナ問題でバイナショナリズムを論じたチョムスキーの『中東 虚構の和平』等がある。佐藤真監督の映画『エドワード・サイード OUT OF PLACE』や映画『チョムスキーとメディア マニュファクチャリング・コンセプト』の字幕の監修も担当。

「デモクラシー・ナウ!」では、ただいま、学生字幕翻訳コン テスト応募受付中。

http://democracynow.jp/contest/

